

「偽教師についての警告 2」

2019年07月09日

ペトロの手紙 二 2章10節 a~16節 彼らは、厚かましく、わがままで、栄光ある者たちをそしってはばかりません。天使たちは、力も権能もはるかにまさっているにもかかわらず、主の御前で彼らをそしったり訴え出たりはしません。この者たちは、捕らえられ、殺されるために生まれてきた理性のない動物と同じで、知りもしないことをそしるのです。そういった動物が減びるように、彼らも減んでしまいます。不義を行う者は、不義にふさわしい報いを受けます。彼らは、昼間から享楽にふけるのを楽しみにしています。彼らは汚れやきずのようなもので、あなたがたと宴席に連なるとき、はめを外して騒ぎます。その目は絶えず姦通の相手を求め、飽くことなく罪を重ねています。彼らは心の定まらない人々を誘惑し、その心は強欲におぼれ、呪いの子になっています。彼らは、正しい道から離れてさまよい歩き、ボソルの子バラムが歩んだ道をたどったのです。バラムは不義のもうけを好み、それで、その過ちに対するとがめを受けました。ものを言えないろばが人間の声で話して、この預言者の常軌を逸した行いをやめさせたのです。

「著者」は、偽教師たちは周りの者たちを嘘偽りで滅びへと誘い、自分自身も真理の道から離れ、神の厳しい裁きを受けると書いてきた。偽教師たちは厚かましく、我がままで、神に従う栄光あるキリスト者たちを誹謗することを止めない。天使たちは、力も権能も遙かに勝っているにもかかわらず、彼らを非難したり、訴え出たりはしない。偽教師たちは、捕らえられ殺されるために生まれてきた理性のない動物と同じである。これらの動物が減びるように、彼らも減んでいく。不義を行う者は、不義に相応しい裁きを受ける。彼らは、昼間から享楽にふけり、悪を楽しんでいる。彼らは汚れや傷のような存在で、あなたがたと宴席に連なる時は、はめを外して騒ぎ立てる。彼らの目は絶えず姦通の相手を求め、飽くことなく罪を重ねている。彼らは、心の定まっていない人々を誘惑し、自分に利益をもたらそうと強欲になり、呪いの子になっている。「彼らは、正しい道から離れてさまよい歩き、ボソルの子バラムが歩んだ道をたどったのです。」バラムの故事は、民数記 22 章 22 節~35 節を引用している。モアブの王バラクはおびたしい数のイスラエル人を見て、恐れ、祈禱師バラムにイスラエル人への呪いを依頼した。バラムがロバに乗ってバラクの所に行く途中、道を遮る、抜き身の剣を手にした御使いが現れた。バラムは気が付かなかったが、ロバは気付いて、道を避けロバを打った時、神がロバの口を開かれたので、ロバはバラムに「わたしがあなたに何をしたというのですか。三度もわたしを打つとは」と言った。バラムはロバに「お前が勝手なことをするからだ。もし、わたしの手に剣があったら、即座に殺していただろう」と怒った。ロバはバラムに「わたしはあなたのろばですし、あなたは今日までずっとわたしに乗って来られたではありませんか。今まであなたに、このようなことをしたことがあるでしょうか」と問うた。彼は『いや、なかった』（民数記 22 : 28~30) 」と答えた。この時、バラムの目が開かれ、抜き身の剣を手にした御使いが、行かせまいとして道に立ちふさがったことを知った。バラムは不義のもうけを得ようと、バラクの所に行こうとしたが、ものの言えないロバが人間の声を発し、彼の誤った行動を止めさせたと譬えている。「著者」は、欲によって行動し、不義に溺れ、人々を滅びに誘う、動物にも劣る、偽教師の誘惑に気をつけるようにと諭している。